

■ 研究所だより

岩城 由紀子

この冬は暖かく過ごしやすい日が続いておりましたが、1月18日、東京でも積雪6cmを記録。この頃から電車などでもマスクをする人が目立ち始め、インフルエンザによる学級閉鎖の話も聞かれるようになりました。ワーカーズコープセンター事業団で販売しているクリーンキラーエースは、暮らしの除菌水ですが、インフルエンザやノロウイルスにも有効という研究結果が出ています。この促進販売用の映像に、赤ちゃんがいればより安全なイメージが伝わるといことで私の子どもも出演させて頂きました。その映像を義理の両親、両親、夫に見せたところ、クリーンキラーの良さまで伝わり、私の家族間では大変好評になっています。クリーンキラーエースも活用し、この冬を乗り切りたいと思います。

私はこれまで、主に研究所の経理・総務に携わっておりましたが、最近では編集にも関わるようになりました。12月号の協同の発見では、9月に協同総研で開催した『いま、よい仕事と社会連帯を考える』研究会を掲載し、編集を担当。登壇者の方々の思いが間違っただけで伝わらないように、読む人にとってわかりやすい文になるようにと考えて編集いたしました。発刊後に会員より、「研究会に参加していない読者にとって意味が通らない部分があるのでは」と指摘され、ご指摘いただいたことに感謝しつつ、「客観的な視点」への配慮が足りなかったと反省し、次回に活かしていきたいと思いました。また、この記事を見

た加納会員より、「自身のこれまでの活動が社会連帯経営だったのではないか」とご連絡頂いたことから今月号の会員だよりへのご寄稿テーマにつながりました。記事の編集に関わることで、これまでとは違った気づきややりがいを発見することでできたように思います。3月号は、放課後等デイサービスの特集を予定しております。専務の上平にサポートを受けながら、特集を担当しておりますので、3月号もどうぞよろしくお願いいたします。

来年度は研究所が設立されてから25年目にあたります。25周年を迎えるにあたり記念事業を予定しており、1月27日、協同総研25周年記念事業実行委員会を開きました。設立時のメンバーや顧問、かつての事務局にも声をかけ実行委員会に参加して頂いています。理事長の岡安は、「四半世紀の間、この研究所が何を解明してきたのか、今何を解明していかなければいけないのかを明らかにしていく記念事業にしたい」と述べ、参加者には協同総研での思い出やエピソード、これからの研究所に期待したいことを話して頂きました。みなさんのお話を聞くなかで、「協同労働の協同組合」だけの調査研究にとどまらず、「協同組合」をリードする研究所としての役割が期待されていると感じました。また、日本労協連の永戸理事長は、「会員の自発的、積極的、能動的な関わりができるような研究所に組織して欲しい。」と述べられました。そのような視点を持ちながら25周年記念事業や今後の飛躍を作っていくことが大切だと思いました。